

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開2003-104843

(P2003-104843A)

(43) 公開日 平成15年4月9日 (2003.4.9)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード* (参考)
A 6 1 K	7/025	A 6 1 K	4 C 0 8 3
	7/031		
	7/032		

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 10 頁)

(21) 出願番号	特願2001-299639 (P2001-299639)	(71) 出願人	000000952 カネボウ株式会社 東京都墨田区墨田五丁目17番4号
(22) 出願日	平成13年9月28日 (2001.9.28)	(71) 出願人	302057203 日清オイリオ株式会社 東京都中央区新川一丁目23番1号
		(72) 発明者	江川 裕一郎 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 カ ネボウ株式会社化粧品研究所内
		(72) 発明者	菱川 昇 東京都中央区新川1丁目23番1号 日清製 油株式会社ファインケミカル事業部内

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 油性メイクアップ化粧料

(57) 【要約】

【課題】優れたつや付与効果を有し、感触や経時安定性に優れた油性メイクアップ化粧料を提供する。

【解決手段】 (a) 炭素数8~30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸 (直鎖又は分岐、飽和又は不飽和)、

(b) 炭素数12~36の直鎖又は分岐二塩基酸、

(c) グリセリン又はグリセリン縮合物から得られるオリゴエステルと、分岐構造を有する炭化水素とを含有することを特徴とする油性メイクアップ化粧料。

【特許請求の範囲】

【請求項1】 下記成分から得られるオリゴエステルと、分岐構造を有する炭化水素とを含有する油性メイクアップ化粧料。

- (a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）
- (b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸
- (c) グリセリン又はグリセリン縮合物

【請求項2】 オリゴエステルの含有量が0.5～10質量%、分岐構造を有する炭化水素の含有量が5～80質量%である請求項1記載の油性メイクアップ化粧料。

【請求項3】 分岐構造を有する炭化水素が、イソパラフィン系炭化水素である請求項2記載の油性メイクアップ化粧料。

【請求項4】 分岐構造を有する炭化水素が、ポリブテン又は水素添加ポリブテンである請求項2記載の油性メイクアップ化粧料。

【請求項5】 オリゴエステルが、下記成分からなるものである請求項1～4いずれか記載の油性メイクアップ化粧料。

- (a) ベヘン酸
- (b) エイコサン二酸
- (c) グリセリン又はグリセリン縮合物

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、油性メイクアップ化粧料に関するものであり、塗布時のなめらかな感触や優れたつやを演出し、経時安定性にも優れた油性メイクアップ化粧料を提供するものである。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】従来、仕上がりのつやが求められる油性メイクアップ化粧料にポリブテン等の分岐構造を有する炭化水素を配合することが幅広く行われている。そして該炭化水素を含有する油性メイクアップ化粧料を固化させるあるいは粘度を高める目的でゲル化剤として固形ワックスあるいはバルミチン酸デキストリンを配合することは公知である。しかし、つやが求められる油性メイクアップ化粧料に固形ワックスを配合する場合、その配合量が少ないと油浮き現象（発汗）が起こりやすく、その配合量の増大とともに仕上がりのつやが損なわれてしまう問題があった。またバルミチン酸デキストリンは幅広い油性基剤に対して優れたゲル化能を有する油性ゲル化剤であるが、ポリブテン等に対しては有効にゲル化能が機能せず、結果として得られる油性メイクアップ化粧料が所望の硬度や粘度になりにくく、また経時において硬度や粘度の低下を引き起こしやすく、最悪の場合分離してしまうという問題を有していた。バルミチン酸デキストリンの配合量を増やすことでこれらの問題はある程度解決できるが、感触の悪化を引き起こすとともに、固形ワックスを配合し

た場合と同様、つやが損なわれてしまう。

【0003】一方、(a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）、(b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸、(c) グリセリン又はグリセリン縮合物から得られるオリゴエステルは、公知の物質であり（特公平61-7403号公報、特開平7-126604号公報）、乳化剤における乳化助剤として有効であることも報告されている（特開2000-219617号公報）。しかしながら、分岐構造を有する炭化水素を必須成分とする油性メイクアップ化粧料において、これを配合することによって上記のように従来の問題点を解決できることは知られていなかった。

【0004】

【課題を解決するための手段】かかる実情において本発明人らは、上記課題を解決すべく鋭意研究を重ねた結果、油性メイクアップ化粧料において、(a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）、(b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸、(c) グリセリン又はグリセリン縮合物から得られるオリゴエステルと、分岐構造を有する炭化水素とを配合することにより、分岐構造を有する炭化水素が有する優れたつや付与効果を損なうことなく、感触や経時安定性に優れた油性メイクアップ化粧料が得られることを見出し本発明を完成した。

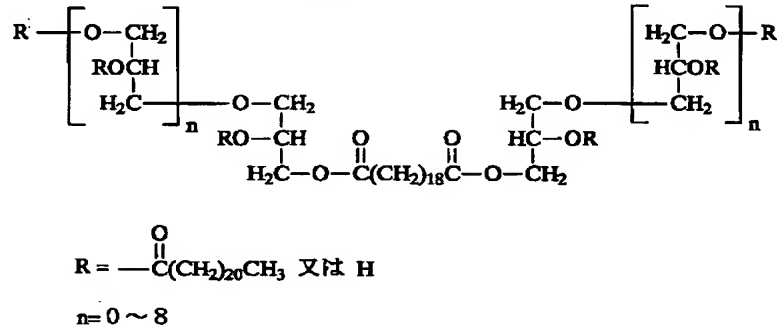
【0005】すなわち、本発明は、(a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）、(b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸、(c) グリセリン又はグリセリン縮合物から得られるオリゴエステルと、分岐構造を有する炭化水素とを含有することを特徴とする油性メイクアップ化粧料にある。

【0006】

【発明の実施の形態】本発明で用いる(a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）、(b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸、(c) グリセリン又はグリセリン縮合物から得られるオリゴエステルは、これらを公知の方法でエステル化することによって得られる生成物である。

(a) 炭素数8～30の脂肪酸又はヒドロキシ脂肪酸（直鎖又は分岐、飽和又は不飽和）としては、炭化水素基又はヒドロキシ炭化水素基が直鎖であっても分岐鎖であってもよく、また、飽和であっても不飽和であっても良く、例えば、オレイン酸、ミリスチン酸、バルミチン酸、ラウリン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、イソステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸、オクタン酸等が挙げられる。(b) 炭素数12～36の直鎖又は分岐二塩基酸としては、例えば、エイコサン二酸、1,7-エチルオクタデカン二酸、ドデカン二酸等が挙げられる。(c) グリセリン又はグリセリン縮合物としては、

このうちグリセリン縮合物は重合度が2以上、好ましくは2~10のポリグリセリンであり、ジグリセリン、トリグリセリン、テトラグリセリン、ヘキサグリセリン、デカグリセリン等を例示でき、これらを単独もしくはグリセリンを含めて混合物として使用できる。これらのオリゴエステルの中でも、下記一般式で示される化合物である、(a) がベヘン酸、(b) がエイコサン二酸、(c) がグリセリン又はグリセリン縮合物からなるものが特に好ましい。これらは、日清製油(株)より「ノムコートHK-G」、ノムコート「HK-P」として販売*10



【0008】本発明で用いる分岐構造を有する炭化水素は、炭素鎖が分岐した構造を有する炭化水素であり、イソパラフィン系炭化水素や、スクワラン、スクワレン、プリスタン、 α -オレフィンオリゴマー等が挙げられる。イソパラフィン系炭化水素とは、イソブチレンを重合成分として含むものであり、例えば、ポリブテン(ポリブチレン)、軽質イソパラフィン、軽質流動イソパラフィン(イソパラフィン)、重質流動イソパラフィン(水素添加ポリブテン)、ポリイソブチレン(ブチルゴム)、流動イソパラフィン(流動ポリイソブチレン、水素添加ポリイソブチレン)等が挙げられる。なお、これらのものを更に蒸留精製したものも好適に使用できる。これらの中で無色液状のものが好ましく、つやの面よりイソパラフィン系炭化水素が好ましく、ポリブテン又は重質流動イソパラフィン(水素添加ポリブテン)が特に好ましい。また、分子量は、500~2700の範囲にあるのが好ましく、分子量が500未満では油性メイクアップ化粧料に塗布時のつやを付与するという点で不十分な場合があり、2700を超えると伸展性、べたつき等感触面で好ましい油性メイクアップ化粧料を得ることが困難となる場合があり好ましくない。さらに油性メイクアップ化粧料を製造する際の取り扱い等を考慮すると800~1500の範囲がさらに好ましい。本発明における配合量は得られる油性メイクアップ化粧料100質量%に対し、5~80質量%が好適である。5質量%未満では油性メイクアップ化粧料に塗布時のつやを付与するという点で不十分な場合があり、80質量%を超えると伸展性、べたつきなどが著しく悪化してしまう。

【0009】本発明の油性メイクアップ化粧料には本発明の効果を損なわない範囲で、前記必須成分以外に通常

* されており容易に入手できる。本発明における配合量は、得られる油性メイクアップ化粧料100質量%に対し、0.5~10質量%が好適である。0.5質量%未満ではゲル化剤としての配合効果を発揮することが困難であり、10質量%を超えると感触が著しく悪化し好ましくない。尚、本発明における油性化粧料とは、実質的に水を含まないものを指す。

【0007】

【化1】

化粧料に配合される各種の粉体、油剤、紫外線防御剤、フッ素化合物、樹脂、粘剤、防腐剤、香料、保湿剤、塩類、溶媒、酸化防止剤、キレート剤、昆虫忌避剤等の成分を使用することができる。本発明で用いる顔料の例としては、通常の化粧料に使用されるものであれば、その形状(球状、棒状、針状、板状、不定形状、鱗片状、紡錘状等)や粒子径(煙霧状、微粒子、顔料級等)、粒子構造(多孔質、無孔質等)を問わず、いずれのものも使用することができ、例えば無機粉体、有機粉体、界面活性剤金属塩粉体、有色顔料、パール顔料、金属粉末顔料、天然色素等があげられ、具体的には、無機粉体としては、顔料級酸化チタン、酸化ジルコニウム、顔料級酸化亜鉛、酸化セリウム、酸化マグネシウム、硫酸バリウム、硫酸カルシウム、硫酸マグネシウム、炭酸カルシウム、炭酸マグネシウム、タルク、マイカ、カオリン、セリサイト、白雲母、合成雲母、金雲母、紅雲母、黒雲母、リチア雲母、ケイ酸、無水ケイ酸、ケイ酸アルミニウム、ケイ酸マグネシウム、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ケイ酸カルシウム、ケイ酸バリウム、ケイ酸ストロンチウム、タングステン酸金属塩、ヒドロキシアパタイト、バーミキュライト、ハイジライト、ベントナイト、モンモリロナイト、ヘクトライト、ゼオライト、セラミックスパウダー、第二リン酸カルシウム、アルミナ、水酸化アルミニウム、窒化ホウ素、窒化硼素、シリカ、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、微粒子酸化セリウム等；有機粉体としては、ポリアミドパウダー、ポリエステルパウダー、ポリエチレンパウダー、ポリプロピレンパウダー、ポリスチレンパウダー、ポリウレタンパウダー、ベンゾグアナミンパウダー、ポリメチルベンゾグアナミンパウダー、ポリテトラフルオロエチレン

30

40

50

パウダー、ポリメチルメタクリレートパウダー、セルロース、シルクパウダー、ナイロンパウダー、12ナイロン、6ナイロン、シリコーンパウダー、シリコーンゴムパウダー、シリコーンエラストマー球状粉体、スチレン・アクリル酸共重合体、ジビニルベンゼン・スチレン共重合体、ビニル樹脂、尿素樹脂、フェノール樹脂、フッ素樹脂、ケイ素樹脂、アクリル樹脂、メラミン樹脂、エポキシ樹脂、ポリカーボネイト樹脂、微結晶繊維粉体、デンプン末、ラウロイルリジン等；界面活性剤金属塩粉体（金属石鹸）としては、ステアリン酸亜鉛、ステアリン酸アルミニウム、ステアリン酸カルシウム、ステアリン酸マグネシウム、ミリスチン酸亜鉛、ミリスチン酸マグネシウム、セチルリン酸亜鉛、セチルリン酸カルシウム、セチルリン酸亜鉛ナトリウム等；有色顔料としては、酸化鉄、水酸化鉄、チタン酸鉄の無機赤色顔料、γ-酸化鉄等の無機褐色系顔料、黄酸化鉄、黄土等の無機黄色系顔料、黒酸化鉄、カーボンブラック等の無機黒色顔料、マンガンバイオレット、コバルトバイオレット等の無機紫色顔料、水酸化クロム、酸化クロム、酸化コバルト、チタン酸コバルト等の無機緑色顔料、紺青、群青等の無機青色系顔料、タール系色素をレーキ化したもの、天然色素をレーキ化したもの、及びこれらの粉体を複合化した合成樹脂粉体等；パール顔料としては、酸化チタン被覆雲母、酸化チタン被覆マイカ、オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆オキシ塩化ビスマス、酸化チタン被覆タルク、魚鱗箔、酸化チタン被覆着色雲母等；タール色素としては、赤色104号、赤色106号、赤色201号、赤色202号、赤色218号、赤色223号、赤色226号、黄色4号、黄色5号、黄色401号、青色1号、青色404号、橙色201号等；天然色素としては、カルミン酸、ラッカイン酸、カルサミン、ブラジリン、クロシン等から選ばれる粉体で、これらの粉体は本発明の効果を妨げない範囲で、粉体の複合化や一般油剤、シリコーン油、フッ素化合物、界面活性剤等で処理したものも使用することができる。例えば、フッ素化合物処理、シリコーン樹脂処理、ペンダント処理、シランカップリング剤処理、チタンカップリング剤処理、油剤処理、ポリアクリル酸処理、金属石鹸処理、アミノ酸処理、無機化合物処理、プラズマ処理、メカノケミカル処理などによって事前に表面処理されていてもいなくてもかまわないし、必要に応じて一種、又は二種以上の表面処理を併用することができる。

【0010】油剤の例としては、例えばアボガド油、アマニ油、アーモンド油、イボタロウ、エノ油、オリーブ油、カカオ脂、カボックロウ、カヤ油、カルナウバロウ、肝油、キャンデリラロウ、牛脂、牛脚脂、牛骨脂、硬化牛脂、キョウニン油、鯨ロウ、硬化油、小麦胚芽油、ゴマ油、コメ胚芽油、コメヌカ油、サトウキビロウ、サザンカ油、サフラワー油、シアバター、シナギリ油、シナモン油、ジョジョバロウ、セラックロウ、ター

トル油、大豆油、茶実油、ツバキ油、月見草油、トウモロコシ油、豚脂、ナタネ油、日本キリ油、ヌカロウ、胚芽油、馬脂、バーシック油、バーム油、バーム核油、ヒマシ油、硬化ヒマシ油、ヒマシ油脂肪酸メチルエステル、ヒマワリ油、ブドウ油、ベイベリーロウ、ホホバ油、マカデミアナッツ油、ミツロウ、ミンク油、綿実油、綿ロウ、モクロウ、モクロウ核油、モンタンロウ、ヤシ油、硬化ヤシ油、トリヤシ油脂肪酸グリセリド、羊脂、落花生油、ラノリン、液状ラノリン、還元ラノリン、ラノリンアルコール、硬質ラノリン、酢酸ラノリン、ラノリン脂肪酸イソプロピル、ラウリン酸ヘキシル、ポリオキシエチレン（以下、POEと略す）ラノリンアルコールエーテル、POEラノリンアルコールアセテート、ラノリン脂肪酸ポリエチレングリコール、POE水素添加ラノリンアルコールエーテル、卵黄油等；炭化水素油として、オゾケライト、セレシン、流動パラフィン、ポロエトレンワックス、モノイソステアリン酸ポリグリセリル、（アジピン酸・2-エチルヘキサ酸・ステアリン酸）グリセリルオリゴエステル、（2-ヘキシルデカン酸・セバシン酸）ジグリセリルオリゴエステル、トリ（カプリル・カプリン・ミリスチン・ステアリン酸）グリセリド、エチレンプロピレンコポリマー、マイクロクリスタリンワックス、ワセリン等；高級脂肪酸としては、ラウリン酸、ミリスチン酸、パルミチン酸、ステアリン酸、ベヘン酸、ウンデシレン酸、オレイン酸、リノール酸、リノレン酸、アラキドン酸、エイコサペンタエン酸（EPA）、ドコサヘキサエン酸（DHA）、イソステアリン酸、12-ヒドロキシステアリン酸等；高級アルコールとしては、ラウリルアルコール、ミリスチルアルコール、パルミチルアルコール、ステアリルアルコール、ベヘニルアルコール、ヘキサデシルアルコール、オレイルアルコール、イソステアリルアルコール、ヘキシルドデカノール、オクチルドデカノール、セトステアリルアルコール、2-デシルテトラデシノール、コレステロール、フィトステロール、POEコレステロールエーテル、モノステアリルグリセリンエーテル（パチルアルコール）、モノオレイルグリセリルエーテル（セラキルアルコール）等；エステル油としては、アジピン酸ジイソブチル、アジピン酸2-ヘキシルデシル、アジピン酸ジ-2-ヘプチルウンデシル、イソノナン酸イソノニル、イソノナン酸イソトリデシル、【0011】モノイソステアリン酸N-アルキルグリコール、イソステアリン酸イソセチル、トリイソステアリン酸トリメチロールプロパン、ジ-2-エチルヘキサ酸ネオペンチルグリコール、2-エチルヘキサ酸セチル、トリ-2-エチルヘキサ酸トリメチロールプロパン、ジイソステアリン酸ポリグリセリル、トリイソステアリン酸ポリグリセリル、テトライソステアリン酸ポリグリセリル、テトラ-2-エチルヘキサ酸ペンタエリスリトール、オクタン酸セチル、オクチルドデシルガム

エステル、オレイン酸オレイル、オレイン酸オクチルドデシル、オレイン酸デシル、オレイン酸フィトステリル、ジカプリン酸ネオペンチルグリコール、コハク酸2-エチルヘキシル、ステアリン酸イソセチル、ステアリン酸ブチル、セバシン酸ジイソプロピル、セバシン酸ジ-2-エチルヘキシル、乳酸セチル、乳酸ミリスチル、パルミチン酸イソプロピル、パルミチン酸2-エチルヘキシル、パルミチン酸2-ヘキシルデシル、パルミチン酸2-ヘプチルウンデシル、パルミチン酸オクチル、1,2-ヒドロキステアリン酸コレステリル、ジペンタエリスリトール脂肪酸エステル、ミリスチン酸イソプロピル、ミリスチン酸オクチルドデシル、ミリスチン酸イソステアリン、ミリスチン酸2-ヘキシルデシル、ミリスチン酸ミリスチル、ジメチルオクタノ酸ヘキシルデシル、ラウリン酸エチル、ラウリン酸ヘキシル、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(コレステリル・オクチルドデシル)、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(コレステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(フィトステリル・オクチルドデシル)、N-ラウロイル-L-グルタミン酸ジ(フィトステリル・ベヘニル・オクチルドデシル)、リンゴ酸ジイソステアリン、トリイソオクタノ酸グリセリル、トリ(カプリル・カプリン酸)グリセリン、トリイソステアリン酸グリセリル、トリイソパルミチン酸グリセリル、モノステアリン酸グリセリル、ジ-2-ヘプチルウンデカン酸グリセリル、トリミリスチン酸グリセリル、ミリスチン酸イソステアリン酸ジグリセリル等が挙げられる。

【0012】また、別の形態の油剤の例としては、例えばジメチルポリシロキサン、メチルヒドロジェンポリシロキサン、メチルフェニルポリシロキサン、アルキル変性オルガノポリシロキサン、末端変性オルガノポリシロキサン、フッ素変性オルガノポリシロキサン、アミノ変性オルガノポリシロキサン、ポリエーテル変性シリコーン、パーフルオロアルキル・ポリオキシアルキレン共変性オルガノポリシロキサン、アクリル変性シリコーン、グリセリル変性シリコーン、ポリグリセリル変性シリコーン、糖変性シリコーン、シリコーンゲル、シリコーンRTVゴム等のシリコーン化合物、パーフルオロポリエーテル、フッ化ビッチ、フルオロカーボン、フルオロアルコール等のフッ素化合物が挙げられる。

【0013】紫外線防御成分としては、無機系と有機系の紫外線防御剤が挙げられる。無機系の例としては、例えば二酸化チタン、低次酸化チタン、酸化亜鉛、酸化セリウムなどの金属酸化物、水酸化鉄などの金属水酸化物、板状酸化鉄、アルミニウムフレークなどの金属フレーク類、炭化珪素などのセラミック類が挙げられる。このうち、平均粒子径が5~100nmの範囲にある微粒子金属酸化物もしくは微粒子金属水酸化物から選ばれる少なくとも一種であることが特に好ましい。これらの粉

末は、従来公知の表面処理、例えばフッ素化合物処理(パーフルオロアルキルリン酸エステル処理やパーフルオロアルキルシラン処理、パーフルオロポリエーテル処理、フルオロシリコーン処理、フッ素化シリコーン樹脂処理が好ましい)、シリコーン処理(メチルヒドロジェンポリシロキサン処理、ジメチルポリシロキサン処理、気相法テトラメチルテトラヒドロジェンシクロテトラシロキサン処理が好ましい)、シリコーン樹脂処理(トリメチルシロキシケイ酸処理が好ましい)、ペンダント処理(気相法シリコーン処理後にアルキル鎖などを付加する方法)、シランカップリング剤処理、チタンカップリング剤処理、シラン処理(アルキルシランやアルキルシラザン処理が好ましい)、油剤処理、N-アシル化リジン処理、ポリアクリル酸処理、金属石鹸処理(ステアリン酸やミリスチン酸塩が好ましい)、アクリル樹脂処理、金属酸化物処理などで表面処理されていることが好ましく、さらに好ましくは、これらの処理を複数組み合わせる用いることが好ましい。例えば、微粒子酸化チタン表面を酸化ケイ素やアルミナなどの金属酸化物で被覆した後、アルキルシランで表面処理することなどが挙げられる。表面処理量としては、粉体質量に対して表面処理量の総計で0.1~50質量%の範囲にあることが好ましい。

【0014】また、有機系紫外線防御剤の例としては、例えば、ジパラメトキシケイ皮酸モノ-2-エチルヘキサン酸グリセリル、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル(別名:パラメトキシケイ皮酸オクチル)、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン-5-硫酸、2,2'-ジヒドロキシ-4-メトキシベンゾフェノン、p-メトキシヒドロケイ皮酸ジエタノールアミン塩、パラアミノ安息香酸(以後、PABAと略す)、エチルジヒドロキシプロピルPABA、グリセリルPABA、サリチル酸ホモメンチル、メチル-O-アミノベンゾエート、2-エチルヘキシル-2-シアノ-3,3-ジフェニルアクリレート、オクチルジメチルPABA、サリチル酸オクチル、2-フェニル-ベンズイミダゾール-5-硫酸、サリチル酸トリエタノールアミン、3-(4-メチルベンジリデン)カンフル、2,4-ジヒドロキシベンゾフェニン、2,2',4,4'-テトラヒドロキシベンゾフェノン、2,2'-ジヒドロキシ-4,4'-ジメトキシベンゾフェノン、2-ヒドロキシ-4-N-オクトキシベンゾフェノン、4-イソプロピルジベンゾイルメタン、ブチルメトキシジベンゾイルメタン、オクチルトリアゾン、4-(3,4-ジメトキシフェニルメチレン)-2,5-ジオキソ-1-イミダゾリジンプロピオン酸2-エチルヘキシル、これらの高分子誘導体、及びシラン誘導体等が挙げられる。また、有機系紫外線防御剤がポリマー粉末中に封止されたものを用いることも可能である。ポリマー粉末は中空であってもなく

ても良く、平均一次粒子径としては0.1~50 μ mの範囲にあれば良く、粒度分布はブロードであってもシャープであっても構わない。ポリマーの種類としてはアクリル樹脂、メタクリル樹脂、スチレン樹脂、ポリウレタン樹脂、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエチレンテレフタレート、シリコーン樹脂、ナイロン、アクリルアミド樹脂等が挙げられる。これらのポリマー粉末中に、粉末質量の0.1~30質量%の範囲で有機系紫外線防御剤を取り込ませた粉末が好ましく、特にUVA吸収剤である4-tert-ブチル-4'-メトキシジベンゾイルメタンを配合することが好ましい。上記の紫外線防御成分のうち、微粒子酸化チタン、微粒子酸化亜鉛、パラメトキシケイ皮酸2-エチルヘキシル、ブチルメトキシジベンゾイルメタン、オキシベンゾン、ベンゾフェノン系紫外線吸収剤からなる群より選ばれた少なくとも1種が、汎用されており、入手が容易で、かつ紫外線防御効果が高いので、好ましい。特に、無機系と有機系を併用することが好ましい。また、UV-Aに対応したものとUV-Bに対応したものを組み合わせて用いることも好適である。

【0015】増粘剤の例としては、アラビアゴム、トラガcant、アラビノガラクトン、ローカストビーンガム（キャロブガム）、グアーガム、カラヤガム、カラギーナン、ベクチン、寒天、クインスード（マルメロ）、デンプン（コメ、トウモロコシ、バレイショ、コムギ）、アルゲコロイド、トラントガム、ローカストビーンガム等の植物系高分子、キサンタンガム、デキストラン、サクシノグルカン、ブルラン等の微生物系高分子、コラーゲン、カゼイン、アルブミン等の動物系高分子、カルボキシメチルデンプン、メチルヒドロキシプロピルデンプン等のデンプン系高分子、メチルセルロース、エチルセルロース、メチルヒドロキシプロピルセルロース、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ニトロセルロース、セルロース硫酸ナトリウム、カルボキシメチルセルロースナトリウム、結晶セルロース、セルロース末のセルロース系高分子、アルギン酸ナトリウム、アルギン酸プロピレングリコールエステル等のアルギン酸系高分子、ポリビニルメチルエーテル、ポリビニルピロリドン、カルボキシビニルポリマー等のビニル系高分子、ポリエチレングリコール等のポリオキシエチレン系高分子、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレン共重合体系高分子、ポリアクリル酸ナトリウム、ポリエチルアクリレート、ポリアクリル酸アミド等のアクリル系高分子、ポリエチレンイミン、カチオンポリマー、ベントナイト、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、ラボナイト、ス멕タイト、サボナイト、ヘクトライト、無水ケイ酸等の無機系増粘剤などが挙げられる。また、他の増粘剤として、油性ゲル化剤があり、例えば、アルミニウムステアレート、マグネシウムステアレート、ジンクミ

ステート等の金属セッケン、N-ラウロイル-L-グルタミン酸、 α 、 γ -ジ- α -ブチルアミン等のアミノ酸誘導体、デキストリンバルミチン酸エステル、デキストリンステアリン酸エステル、デキストリン2-エチルヘキサン酸バルミチン酸エステル等のデキストリン脂肪酸エステル、ショ糖バルミチン酸エステル、ショ糖ステアリン酸エステル等のショ糖脂肪酸エステル、モノベンジリデンソルビトール、ジベンジリデンソルビトール等のソルビトールのベンジリデン誘導体、ジメチルベンジルドデシルアンモニウムモンモリロナイトクレー、ジメチルジオクタデシルアンモニウムモンモリナイト、オクタデシルジメチルベンジルアンモニウムモンモリナイト等の有機変性粘土鉱物等が挙げられる。

【0016】本発明で用いる生理活性成分としては、皮膚に塗布した場合に皮膚に何らかの生理活性を与える物質が挙げられる。例えば、抗炎症剤、老化防止剤、ひきしめ剤、保湿剤、血行促進剤、抗菌剤、殺菌剤、乾燥剤、冷感剤、温感剤、ビタミン類、アミノ酸、創傷治癒促進剤、刺激緩和剤、鎮痛剤、細胞賦活剤、酵素成分等が挙げられる。その中でも、天然系の植物抽出成分、海藻抽出成分、生薬成分が特に好ましい。本発明では、これらの生理活性成分を1種または2種以上配合することが好ましい。例えば、アシタバエキス、アカシアエキス、マタタビエキス、アボガドエキス、アマチャエキス、アルテアエキス、アルニカエキス、アロエエキス、アンズエキス、アンズ核エキス、イチヨウエキス、ウコンエキス、ウーロン茶エキス、エイジツエキス、エチナシ葉エキス、オウゴンエキス、オウバクエキス、オオムギエキス、トチノキエキス、ニラエキス、タチアオイエキス、アサギリソウエキス、ハマヒルガオエキス、チャエキス、マーガレットエキス、シナモンエキス、ハトムギエキス、オトギリソウエキス、オドリコソウエキス、オランダカラシエキス、オレンジエキス、サフランエキス、ビワエキス、海水乾燥物、加水分解エラスチン、加水分解コムギ末、加水分解シルク、カシスエキス、トウダイグサエキス、ウィキョウエキス、レンギョウエキス、リンドウエキス、カモミラエキス、カロットエキス、カワラヨモギエキス、カルカデエキス、キウイエキス、ゲンノショウコエキス、レイシエキス、キナエキス、キューカンバーエキス、グアノシン、クチナシエキス、ホタルカズラエキス、セイヨウヤマハッカエキス、オリーブエキス、オオマツヨイグサエキス、クマザサエキス、クララエキス、クルミエキス、グレープフルーツエキス、オオバコエキス、イタドリエキス、ニワトコエキス、クレマチスエキス、ダイオウエキス、ウキクサエキス、ハコベエキス、チョウジエキス、イラクサエキス、タチジャコウソウエキス、クロレラエキス、クワエキス、ゲンチアナエキス、紅茶エキス、酵母エキス、ゴボウエキス、コメヌカ発酵エキス、コメ胚芽油、コンフリーエキス、コラーゲン、コケモモエキス、サイシンエ

キス、サイコエキス、サイタイ抽出液、サルビアエキス、サボンソウエキス、ササエキス、サンザシエキス、サンショウエキス、シイタケエキス、ジオウエキス、シコンエキス、シソエキス、シナノキエキス、シモツケソウエキス、シャクヤクエキス、ショウブ根エキス、シラカバエキス、スギナエキス、セイヨウキヅタエキス、セイヨウサンザシエキス、セイヨウニワトコエキス、セイヨウノコギリソウエキス、セイヨウハッカエキス、セージエキス、ゼニアオイエキス、センキュウエキス、センブリエキス、ダイズエキス、タイソウエキス、タイムエキス、チガヤエキス、チンピエキス、トウキエキス、トウキンセンカエキス、トウニンエキス、トウヒエキス、ドクダミエキス、トマトエキス、納豆エキス、ニンジンエキス、ニンニクエキス、ノバラエキス、ハイビスカスエキス、バクモンドウエキス、ハスエキス、バセリエキス、蜂蜜、バリエタリアエキス、ヒキオコシエキス、ピサポロール、フキタンボボエキス、フキノトウエキス、ブクリョウエキス、ブッチャーブルームエキス、ブドウエキス、プロボリス、ヘチマエキス、ベニバナエキス、ペパーミントエキス、ボダイジュエキス、ボタンエキス、ホップエキス、マツエキス、ミズバショウエキス、ムクロジエキス、モモエキス、ヤグルマギクエキス、ユーカリエキス、ユキノシタエキス、ユズエキス、ヨクイニンエキス、ヨモギエキス、ラベンダーエキス、レタスエキス、レモンエキス、レンゲソウエキス、ローズエキス、ローマカミツレエキス、ローヤルゼリーエキス等を挙げることができる。

【0017】また、ムコ多糖類、ヒアルロン酸ナトリウム、コンドロイチン硫酸ナトリウム、コラーゲン、エラスチン、キチン、キトサン、加水分解卵殻膜などの生体高分子、グリシン、ヴァリン、ロイシン、イソロイシン、セリン、トレオニン、フェニルアラニン、アルギニン、リジン、アスパラギン酸、グルタミン酸、シスチン、システイン、メチオニン、トリプトファン等のアミノ酸、エストラジオール、エテニルエストラジオールなどのホルモン、アミノ酸、乳酸ナトリウム、尿素、ピロリドンカルボン酸ナトリウム、ベタイン、ホエイなどの保湿成分、スフィンゴ脂質、セラミド、コレステロール、コレステロール誘導体、リン脂質などの油性成分、 ε -アミノカプロン酸、グリチルリチン酸、 β -グリチルレチン酸、塩化リゾチーム、グアイアズレン、ヒドロコルチゾン、アラントイン、トラネキサム酸、アズレン等の抗炎症剤、ビタミンA、B2、B6、C、D、K、ビタミンC配糖体、パントテン酸カルシウム、ピオチン、ニコチン酸アミド、アラントイン、ジイソプロピルアミンジクロロアセテート、4-アミノメチルシクロヘキサンカルボン酸等の活性成分、 α -ヒドロキシ酸、 β -ヒドロキシ酸などの細胞賦活剤、 γ -オリザノールなどの血行促進剤、レチノール、レチノール誘導体等の創*

実施例1、比較例1~2（流し込みタイプ固形油性口紅）

* 傷治癒剤、セファランチン、カンゾウ抽出物、トウガラシチンキ、ヒノキチオール、ヨウ化ニンニクエキス、塩酸ピリドキシン、ニコチン酸、ニコチン酸誘導体、パントテン酸カルシウム、D-パントテニルアルコール、アセチルパントテニルエチルエーテル、ピオチン、アラントイン、イソプロピルメチルフェノール、エストラジオール、エチニルエストラジオール、塩化カプロニウム、塩化ベンザルコニウム、塩酸ジフェンヒドラミン、タカナール、カンフル、サリチル酸、ノニル酸バニリルアミド、ノナン酸バニリルアミド、ピロクトンオラミン、ペンタデカン酸グリセリル、1-メントール、カンフルなどの清涼剤等が挙げられる。

【0018】本発明の油性メイクアップ化粧料としては、口紅、リップグロス、リップクリーム、ファンデーション、コンシーラー、アイシャドウ、アイグロス、アイライナー、アイブロー、などが挙げられる。さらに、製品の形態についても特に限定は無いが液状、スティック状、固形状、ペースト状等に適用が可能である。

【0019】

20 【実施例】以下、実施例および比較例によって本発明を更に詳細に説明する。尚、以下の処方における（ベヘン酸／エイコサン二酸）グリセリルは、日清製油社製「ノムコートHK-G」を用いた。

【0020】実施例および比較例の各油性メイクアップ化粧料の各種特性に対する評価方法を以下に示す。

【0021】〔皮膚有用性評価〕専門パネラーを各評価品目ごとに20名ずつ用意し（但し、品目によりパネラーが重複する場合もある）、各評価項目において優れていると判断したパネラーの数から、下記に示す分類によって評価を行った。

【0022】

20人中「良い」と答えた人数	評 価
15人以上	◎
10~14人	○
5~9人	△
0~4人	×

【0023】〔硬度〕油性メイクアップ化粧料を脱気後100℃にて容量10mLの軟膏壺に充填し、放冷固化後、30℃の恒温槽に6時間以上放置し、レオメーター（サン科学社製RHEO TEX、プランジャー径：10mmφ、架台上昇スピード：1mm/sec）にて測定したときのピーク値を硬度とした。

【0024】〔安定性〕油性メイクアップ化粧料を5℃、30℃、45℃の各恒温槽に入れ、3ヶ月間品質変化がないかどうか観察し、全く問題のないものを○、異常が起こる兆候が観察されるものを△、異常が起こったものを×とした。

【0025】

次に示す組成（数字は質量％）：

ポリブテン	25.0
リンゴ酸ジイソステアリル	25.0
ヒドロキシステアリン酸2-エチルヘキシル	残量
流動パラフィン	5.0
イソノナン酸イソトリデシル	3.0
赤色202号	0.4
酸化チタン	1.0
ベンガラ被覆雲母チタン	5.0

において、ゲル化剤として（ベヘン酸／エイコサン二酸）グリセリル、セレシン、パルミチン酸デキストリンをそれぞれの程度添加すれば固形油性口紅として筆や指への取れ具合が最適（前記硬度測定法により200g前後）となるかを検討し、その結果に従い表1に示す固*

10* 形油性口紅を常法により調製後、樹脂製コンパクト容器に流し込み、各種評価を行った。その評価結果も併せて表1に示す。

【0026】

【表1】

	実施例	比較例	
	1	1	2
（ベヘン酸／エイコサン二酸）グリセリル	4.0		
セレシン		8.0	
パルミチン酸デキストリン			12.0
ポリブテン	25.0	25.0	25.0
リンゴ酸ジイソステアリル	25.0	25.0	25.0
ヒドロキシステアリン酸2-エチルヘキシル	残量	残量	残量
流動パラフィン	5.0	5.0	5.0
イソノナン酸イソトリデシル	3.0	3.0	3.0
赤色202号	0.4	0.4	0.4
酸化チタン	1.0	1.0	1.0
ベンガラ被覆雲母チタン	5.0	5.0	5.0
塗布時のつや	◎	○	△
感触	◎	△	×
保存安定性	○	×（※）	○
硬度	210	200	200

※：30℃及び45℃で発汗

【0027】表1の結果から明らかなように、本発明の口紅は塗布時のつや、感触、保存安定性に優れたものであった。

【0028】

実施例2～3、比較例3～5（液状リップグロス）

表2に示す処方に従い液状リップグロスを常法により調製後、筆つきボトル容器に充填し、各種評価を行った。その評価結果も併せて表2に示す。

【0029】

【表2】

	実施例		比較例		
	2	3	3	4	5
(ベヘン酸/エイコサン二酸)グリセリル	0.5	2.0			0.5
パルミチン酸デキストリン			5.0	5.0	
水素添加ポリブテン	80.0	40.0	80.0	40.0	80.0
リンゴ酸ジイソステアリル		20.0		20.0	
ヒドロキシステアリン酸2-エチルヘキシル	残量	残量	残量	残量	残量
メチルフェニルポリシロキサン		3.0		3.0	
α-オレフィンオリゴマー	5.0	5.0	5.0	5.0	
ラウロイルリジン処理赤色201号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ラウロイルリジン処理黄色4号	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
ラウロイルリジン処理雲母チタン	2.0	2.0	2.0	2.0	2.0
塗布時のつや	◎	◎	○	△	◎
感触	○	◎	△	○	×
保存安定性	○	○	×(※1)	△(※2)	○

※1:45℃で分離及び顔料沈降
※2:45℃で分離気味

【0030】表2の結果から明らかなように、本発明の * たものであった。
リップグロスには塗布時のつや、感触、保存安定性に優れ* 【0031】

実施例4（流し込みタイプ固形アイグロス）

(ベヘン酸/エイコサン二酸)グリセリル	10.0
マイクロクリスタリンワックス	2.0
パルミチン酸デキストリン	2.0
ポリブテン	5.0
トリオクタン酸グリセリル	残量
流動パラフィン	20.0
ホホバ油	10.0
ジカブリン酸プロピレングリコール	10.0
イソノナン酸イソノニル	5.0
メチルポリシロキサン	10.0
シリカビーズ	10.0
ポリアクリル酸アルキル	3.0
赤色226号	0.1
(PET/A1/エポキシ樹脂)積層末	5.0

【0032】実施例4のアイグロスは塗布時のつや、感触、保存安定性に優れたものであった。 ※ 【0033】

実施例5（口紅）

雲母チタン	3.0
赤色104号の(1)アルミニウムレーキ	0.4
青色1号アルミニウムレーキ	0.5
橙色201号	0.2
セレシン	8.0
マイクロクリスタリンワックス	5.0
パラフィン	4.0
水素添加ポリブテン	25.0
イソオクタン酸セチル	2.0
(ベヘン酸/エイコサン二酸)グリセリル	5.0
植物性スクワラン	0.5
天然ビタミンE	0.5
オキシステアリン酸オクチル	15.0
オクチルドデカノール	5.0
トリ(カブリン・カブリン・ミリスチン・ステアリン酸)グリセリド	5.0

【0034】

17	トリ（カプリル・カプリン酸）グリセリン	18
	リシノール酸オクチルドデシル	10.0
		10.9
実施例6（ファンデーション）		
	キャンデリラロウ	2.0
	カルナウバロウ	1.0
	（ベヘン酸／エイコサン二酸）グリセリル	0.5
	モノステアリン酸ポリエチレングリコール（45 E. O.）	0.6
	メチルポリシロキサン（20 c s）	6.0
	オレイン酸ジグリセリン	1.5
	流動イソパラフィン（日本油脂社製 バームリーム6）	15.0
	ポリブテン	5.0
	パラジメチル安息香酸2-エチルヘキシル	1.0
	イソステアリン酸イソプロピル	残 量
	無水ケイ酸	0.5
	ポリエチレン末	1.0
	酸化チタン	16.0
	ポリエチレン処理ベンガラ	0.8
	ポリエチレン処理黄酸化鉄	3.5
	ポリエチレン処理黒酸化鉄	0.3
	ポリエチレン処理カオリン	10.0
	ナイロンパウダー	3.0
	ポリアクリル酸アルキル	10.0

【0035】

* クアッパ化粧品は塗布時のつやや感触及び保存安定性に
優れたものであることは明らかである。

【発明の効果】以上詳述したように、本発明の油性メイ*

フロントページの続き

Fターム(参考) 4C083 AA122 AB172 AB232 AB242
 AB442 AC011 AC012 AC021
 AC022 AC072 AC352 AC402
 AC421 AC422 AC792 AC842
 AC852 AC862 AD022 AD072
 AD092 AD152 AD252 AD662
 CC13 CC14 DD30 EE06 EE11